

県下医療機関・臨床研修病院紹介

熊本赤十字病院の臨床研修教育が目指すもの

熊本赤十字病院 病院長

一 二 三 倫 郎

熊本赤十字病院は救命センターを併設した病床数四九〇床の中規模急性期病院ですが、一九八一年以来臨床研修病院として若手医師の育成にも熱心に取り組んできました。当初より自治医大卒業生の初期研修を

スーパーローテート方式で行い、地域医療現場に必要な総合診療（プライマリケア）能力を習得させることを目標としてきました。二十四時間、三六五日、一次〜三次救急患者全てを受け入れるE R型救命救急センターでの研修と全科をローテートする北米型の研修システムは、沖縄県立中部病院で教育を受けた多くの医師たちを中心に形づくられてきました。

二〇〇四年に厚生労働省は卒後二年間に総合診療能力を習得することを目標として〈新医師臨床研修制度〉を法制上義務化しました。当初、内科、救急科を含む主要七科はプライマリケア実践のため必修科とされ、科が改定され、外科、麻酔科、産婦人科、小児科、精神科は選択科へ格

下げとなりました。しかしながら、E Rには小児科、産婦人科を含む全科の患者さんがたくさん来院されます。疾患や病態を問わず全ての患者さんに初期対応できる医師を育てることが、この制度の大きな目的であることに変わりはありません。私たちの研修医育成の目標も、まさしく「初期対応のできる医師、目の前の急変に逃げない医師」を育てること

なく、まず内科系や外科系といった方向性を選び、関連する科をローテートした後、自分の専門科を選択するプログラムで、北米での専門医育成システムをとりいれています。今後、厚生労働省は専門医の認定と、養成プログラムの評価・認定という二つの機能を担う第三者機関を設置する方向であり、「総合医・総合診療医」を現在一八ある基本領域の専門医の一つとして位置付けることを検討しています。後期研修に関しても学会の認定制度と並行して、厚生労働省が専門医養成の枠組みを検討しつつあります。

当院は二〇一一年、NP

〇法人卒後臨床研修評価機構による審査を受け、二〇一二年一月より四年間の認定研修病院となりました。

全国的には一二六の研修病院がすでに認定を受けていますが、熊本県内の臨床研修病院としては最初の認定病院となります。臨床研修病院も、その研修教育の質が評価される時代になってきたと言えるかもしれません。

後期研修では、全国的にも珍しい内科系、外科系、E R系、国際救済医師養成系の総合プログラムを準備しています。卒後三年目からいきなり、各専門科の研修を受けるのでは

〈医師である前に良き社会人であれ〉ということ。病気に悩む患者さんを診る臨床医にとつて最も大切なことは、患者・家族の思いに真摯に、誠実に対応できる心を持つことです。研修医は医師だけで育てるわけではありません。病院全体のスタッフ、患者さんの協力を得て社会に貢献できる良医を育成していきます。私たちは今後もこの基本的な考えを堅持しながら、知識や技術だけを偏重しない、優れた医師の育成に力を注ぎたいと考えています。



熊本赤十字病院